

秋期の富士山北麓亜高山帯上部で観察された鳥類

西 教生

(2013 年 9 月 30 日受付 2013 年 12 月 2 日受理)

Birds observed during the fall on the upper subalpine zone
of Mount Fuji's northern slopes

NORIO NISHI

要 旨

秋期の富士山北麓亜高山帯上部（森林限界付近）において、渡り鳥の調査をおこなった。調査は2009年10月～2012年11月までの9～11月に25回、定点調査によって実施した。調査の結果、12科19種の鳥類が確認された。出現率が高かったのはヤマガラ、ヒヨドリ、メジロであった。ヤマガラは2010年および2012年、ヒヨドリおよびメジロは2010～2012年に出現した。月別の出現種類数は9月は5種、10月は14種、11月は8種であった。9～11月のすべての月で観察されたのはハイタカだけであった。

キーワード：亜高山帯上部，渡り鳥

はじめに

高山帯や亜高山帯の繁殖期の鳥類相についての報告は、多くはないものの散見される。しかし、非繁殖期である秋期や冬期における情報は極めて少ない。その理由について古厩（1978, 1980）は、気象条件の変化や積雪が調査の妨げになることを指摘している。じっさい、冬期の高山帯や亜高山帯は積雪や強風などによって調査をおこなうのが困難な場合が多い。また、夏期とは違って調査地までの移動の方法も限定される。日本では普通に観察されるヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis* も、高標高地における生息状況の情報は少ない（森本 2011）。つまり、高山帯や亜高山帯では秋期や冬期の鳥類相はおろか、普通種の記録でさえ乏しい。

筆者は富士山北麓の亜高山帯上部（森林限界付近）において、年間を通じた鳥類調査をおこなっている。今回は秋期（9～11月）の渡りの時期にのみ、亜高山帯上部で観察された鳥類を報告する。鳥類の渡りの行動を理解するには、渡りの経路や速度を把握する以外に、どのような環境を利用しているのかを明らかにすることも重要である。亜高山帯上部での秋期の記録は、鳥類の渡りの行動を解明するさいの貴重な資料になると考えられる。

調査地と方法

調査地は山梨県南都留郡鳴沢村富士山である。調査地の標高は2350 mで、亜高山帯の上部にあたる。植生はカラマツ *Larix leptolepis*、シラビソ *Abies veitchii*、コメツガ *Tsuga diversifolia* などの針葉樹が優占し、部分的にダケカンバ *Betula ermanii*、ミヤマハンノキ *Alnus*

maximowiczii、ナナカマド *Sorbus commixta*、ハクサンシャクナゲ *Rhododendron brachycarpum* などの広葉樹が生えている。針葉樹が林として広がっている場所と、裸地の部分がある。

調査は2009年10月～2012年11月までに25回、図1におけるA地点（35°38' N, 138°70' E）におい

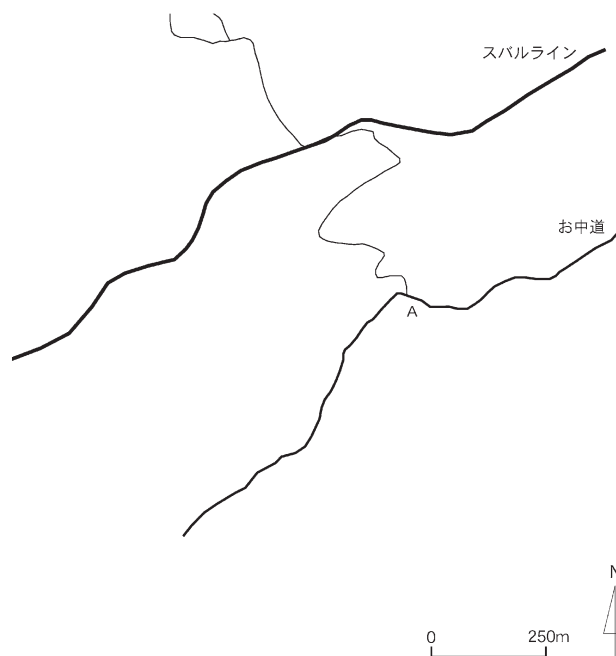


図1. 調査地。図中のAが調査地点。

表 1. 秋期に亜高山帯上部で観察された鳥類。

科名	種名	属名	2009年	2010年			2011年											2012年											出現率	
			10/19	11/21	9/6	9/13	9/24	10/11	10/18	11/1	11/8	11/29	10/4	10/7	10/11	10/17	10/24	11/1	11/7	9/13	9/18	9/27	10/2	10/9	10/26	11/3	11/9			
アマツバメ科	ヒメアマツバメ	<i>Apus nipalensis</i>			○																							8%		
タカ科	ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>						○	○	○										○						○		20%		
	ノスリ	<i>Buteo buteo</i>													○											○		8%		
キツツキ科	アカゲラ	<i>Dendrocopos major</i>												○													○	8%		
ハヤブサ科	チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus</i>												○														4%		
	チゴハヤブサ	<i>Falco subbuteo</i>												○														4%		
	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>												○														4%		
シジュウカラ科	ヤマガラ	<i>Poecile varius</i>			○	○		○												○	○	○		○	○	○		36%		
	シジュウカラ	<i>Parus minor</i>																								○		16%		
ツバメ科	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>			○															○	○	○	○	○	○			12%		
	イワツバメ	<i>Delichon dasypus</i>			○																○	○						8%		
ヒヨドリ科	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>						○						○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○			36%		
メジロ科	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>						○	○		○			○		○									○			36%		
ヒタキ科	アカハラ	<i>Turdus chrysolaus</i>																								○		4%		
	ノビタキ	<i>Saxicola torquatus</i>												○														4%		
イワヒバリ科	イワヒバリ	<i>Prunella collaris</i>			○						○													○				16%		
セキレイ科	ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>																							○			4%		
アトリ科	カワラヒワ	<i>Chloris sinica</i>						○	○																			8%		
	シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>																								○		4%		
12科	19種																													

て、晴天または曇天の日に定点調査でおこなった。秋期の渡りの時期に亜高山帯上部に出現する鳥類を調べるのが目的であることから、定点調査は各年の9～11月に実施した。調査地点の周辺に遮るものがなかったため調査半径は200 mとし、その範囲に出現した鳥類の種名および行動を記録した。調査は早朝から開始し、調査時間は1時間30分～10時間であった（平均4時間50分）。西（2011, 2012）をもとに、亜高山帯上部で繁殖期や越冬期に確認されていない鳥類を通過鳥と判断し、その鳥類の記録だけを扱った。調査には8倍の双眼鏡を使用した。なお、本研究は山梨県富士・東部林務環境事務所から県有林への入山許可を得て実施した。

結 果

亜高山帯の上部で秋期の渡りの時期（9～11月）に確認された鳥類は、12科19種であった（表1）。出現率はヤマガラ *Poecile varius*、ヒヨドリ、メジロ *Zosterops japonicus* の3種が36%で最も高く、次いでハイタカ *Accipiter nisus* の20%、シジュウカラ *Parus minor* およびイワヒバリ *Prunella collaris* の16%の順であった。出現率の高かった3種の出現年は、ヤマガラは2010年および2012年、ヒヨドリおよびメジロは2010～2012年に出現した。2009年11月21日、2010年9月24日、11月29日、2011年10月4日、11月7日は秋期にのみ観察された鳥類は1種類も出現しなかった。

表2に月別の合計出現回数を示した。出現種類数は9月は5種、10月は14種、11月は8種で、9～11月のすべての月で観察されたのはハイタカだけであった。

出現時の行動は、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ノビタキ *Saxicola torquatus*、イワヒバリの5種以外は飛翔であった。この5種の内のイワヒバリは地上で採食をしており、それ以外は樹上に止まっていたり飛翔中であった。また、ヤマガラおよびシジュウカラは調査時間中に断続的に出現したのに対し、残りの17種は出現後すぐに飛び去った。

考 察

秋期の亜高山帯上部の低温や強風といった厳しい気象条件、さらに針葉樹林という単調な植生は鳥類にとって生息

表 2. 月別の合計出現回数。

種名/月	9月	10月	11月
ヒメアマツバメ	2		
ハイタカ	1	2	2
ノスリ		2	
アカゲラ		1	1
チョウゲンボウ		1	
チゴハヤブサ		1	
ハヤブサ		1	
ヤマガラ	5	4	
シジュウカラ		3	1
ツバメ	3		
イワツバメ	2		
ヒヨドリ		2	7
メジロ		7	2
アカハラ			1
ノビタキ		1	
イワヒバリ		2	2
ハクセキレイ		1	
カワラヒワ		2	
シメ			1

に適した環境とは思えない。多くの種は一時的な出現であったものの、19種の鳥類が確認された。その中には、ヒメアマツバメ *Apus nipalensis*、ツバメ *Hirundo rustica*、イワツバメ *Delichon dasypus* などの主に平地で飛翔性の昆虫を採食する鳥類も出現した。約40年前に調査地の近隣で春夏に実施された調査ではイワツバメが記録されている（黒田ほか1971）が、近年は富士山北麓の繁殖期には確認されていない（西 2011, 2012）。

2010年10月11日にはチゴハヤブサ *Falco subbuteo* が出現した。このチゴハヤブサの記録は、山梨県における本種の初記録である（日本野鳥の会甲府支部・やまなし野鳥の会 2011）。なお、チゴハヤブサは2011年6月7日に山梨県大月市でも観察されている（西 未発表）。

ヤマガラおよびシジュウカラは低山帯の林に生息する鳥類である（中村・中村 1995）。この両種は調査時間中に断続的に出現したが、混群ではなかった。ヤマガラは2010年および2012年に観察されていることから、周期的な出現パターンが示唆される。ヤマガラが亜高山帯の上部に出

現する要因は不明であるが、本種の習性を考えると貯食行動に起因している可能性がある。

ヒヨドリは春や秋に渡りをする事が知られている（たとえば、中村・中村 1995, 中村 2008）。春は高標高地に出現することが報告されており（森本 2011）、今回の調査から秋期も亜高山帯上部を利用することが明らかになった。今後は個体数や飛翔方向など詳細な記録をとることが求められる。メジロは秋・冬に暖地に移動する（中村・中村 1995）が、渡りの時期には亜高山帯上部を通過するものがあると考えられた。ヒヨドリおよびメジロとも3年間続けて出現していることから、秋期に亜高山帯上部で観察されることは稀な現象ではないであろう。

アカハラ *Turdus chrysolaus* は約40年前の調査地の近隣の春夏の調査で観察されているものの（黒田ほか 1971）、今回は秋期にしか確認できなかった。ノビタキは亜高山帯にある高山草地、高山帯のハイマツの間の高山草地などでも見られるという（中村・中村 1995）。調査地周辺では繁殖期にノビタキは見られない（西 2011, 2012）が、繁殖地の草原では露出土の多い荒れ地状の部分や流土などで傷ついた部分を好む（中村 1963, 中村・中村 1995）。そのため、雪崩等による攪乱のあった場所では繁殖する可能性もある。

月別の出現種類数は10月が最も多かった。つまり、亜高山帯上部を通過する鳥類は10月に多いと考えられる。出現種は9月と10月ではあまり重複していないが、10月と11月で重複している種が比較的多かった。

今回は秋期の亜高山帯上部で観察された鳥類について報告した。亜高山帯上部は森林限界に近く、非繁殖期の継続した調査が困難なことから情報が乏しく、記録を蓄積していかなければならない。たとえば、アカゲラ *Dendrocopos major* やヤマガラなどの森林性鳥類が確認されたが、これらは今後、調査地周辺に定着する可能性もある。そうした場合、生息地を拡大するさいにどのような現象が見られるのであろうか。こうした鳥類の動態にも注意しつつ、高標高域における渡りの動態を、ほかの調査地の結果とも比較する必要がある。そのためには、各地の高標高域で秋期に調査がなされないといけない。

引用文献

- 古厩昌幸（1978）中央アルプス木曽駒ヶ岳の鳥相Ⅰ．高山帯．鳥 27：91-97
- 古厩昌幸（1980）中央アルプス木曽駒ヶ岳の鳥相Ⅲ．亜高山帯．鳥 29：1-6
- 黒田長久・千羽晋示・由井正敏・中村司（1971）富士山地域の鳥類．（富士急行株式会社堀内浩庵会編）富士山 富士山総合学術調査報告書．富士急行株式会社，東京，pp. 856-948
- 森本元（2011）日本の高山（亜高山帯）におけるヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis* の出現．Strix 27：105-112
- 中村和雄（2008）関東地方における秋期のヒヨドリの渡り－齋藤（1935-1943）の観察記録の解析．山階鳥類学雑誌 39：69-86

中村登流（1963）繁殖期における山地草原性鳥類の群集構造について．山階鳥研報 3：334-357

中村登流・中村雅彦（1995）原色日本野鳥生態図鑑＜陸鳥編＞．保育社，大阪

日本野鳥の会甲府支部・やまなし野鳥の会（2011）山梨県鳥類目録 やまなしの野鳥 2011．日本野鳥の会甲府支部・やまなし野鳥の会，甲府

西教生（2011）富士山北麓，亜高山帯上部の鳥類相．富士山研究 5：21-24

西教生（2012）富士山北麓の繁殖期の鳥類相．富士山研究 6：45-49

